



# 男子バレーボール部を Vプレミアリーグ JTサンダース選手2名が 指導!

9月27日(土)東広島キャンパスにイタリアブリーグセリエAでも活躍された元全日本代表の加藤選手と元全日本代表リベロの酒井選手が、本学男子バレーボール部の指導のため来学されました。これは、広島FMの番組「We Love Thunders!」(毎週木曜日20:00～20:55放送)に、本学男子バレーボール部のマネージャーが「今期から1部リーグに昇格するので、ぜひ指導をお願いしたい。」と懇願し、実現したものです。

当日は、ボールコントロールの方法や実際に加藤選手の打つスパイクをレシーブし、そのレシーブフォーメーションについて酒井選手から指導いただきました。その後、両選手を交えた紅白戦では、試合中のプレーや相手チームの動きを先読みし攻撃する方法など実践的な指導をいただきました。また、紅白戦終了後には、バレーボールに取り組む姿勢や強い気持ちを持ってプレーすることが結果に繋がるなどの話も伺うことができました。

練習後には質問タイムがあり、両選手の大学時代の話や、

世界で活躍した選手ならではの話も聞くことができ、部員達も大いに刺激を受けたようで、参加した部員からは、「加藤選手、酒井選手に指導してもらえて本当に嬉しかった。」「加藤選手の打った球が重くてビックリした。」「いつもと違う練習ができて、とても刺激になった。」「頭を使った練習がよかった。」などの声が聞かれました。



## 歌を通して献血を呼びかける 女子大生デュオがインディーズデビュー!

情報通信学科4年の森野紘美さんが、安田女子大学4年の山本佳代子さんとのアコースティックギターデュオ「小吉」でインディーズデビューを果たしました。昨年12月に広島県赤十字血液センターが主催した年末献血キャンペーンに向け作曲した『見えないキズナ』を含む2曲からなるCDを今年の9月10日に発売。所属するレコード会社のインターネットなどで販売しています。

『見えないキズナ』の作曲にあたり、イメージを膨らまそうと広島市内にある献血ルーム「もみじ」を訪問、そこで若くして白血病と闘い20歳で亡くなった男性の手記に衝撃を受ける。そこには献血者への強い感謝と、生きることの喜びが伝わっていました。「このことを、いま生きている人に伝えたい!」。そうして出来上がったのがこの曲です。当初、CD化の話はありませんでしたが、キャンペーン後にレコード会社が彼女たちの熱心な活動に目を留め、デビューが決まりました。より強くメッセージを発信できるように曲を練り直し、レコーディングを経て遂にデビュー。

森野さんは、「私たちが当たり前手にしている日常は決して当たり前ものではない。苦しいことも悲しいことも生きているからこそ手に入れることができる。生きているからこそ乗り越えていける。今ここに自分が存在していることの「奇跡」を彼の手記を通して気づかせてもらった。そのことを今生きる全ての人に伝えていきたい。」と力強く話していました。今後も広島市内を中心に、ライブ活動を続ける予定です。

